

日本・EU 議員会議

倉田 保雄

(参議院国際部国際会議課長)

日本とEUとの間のハイ・レベルの対話の枠組みというと、多くの人が1991年に開始された「日EU定期首脳会議」を思い浮かべるかもしれない。しかし、このシステムの構築に先んじて1978年にスタートした「日本・EU議員会議(1993年開催の第14回会議までは「日本・EC議員会議」。)」については必ずしも一般に知られているとは言い難い。本稿は日本・EU議員会議について簡単な紹介を行うものである。

我が国とEUは基本的な価値を共有するグローバル・パートナーとして現在は極めて良好な関係であるが、1960年代から両者の間では貿易(通商)問題が大きな懸案となっていた。1970年1月1日にEC加盟各国が有していた対外通商権限がECに移行し、これに対応するような形で、その直後の2月2日、欧州議会は「ECと日本との貿易問題の進展を注意深く見守り、かつ、必要に応じ、欧州議会と日本国会との接触の可能性を検討することを所管委員会に命じる」ことを決議した。

この決議が欧州議会でどのようにフォローされたかは確認できないが、1976年に我が国の対EC貿易黒字が過去最高を記録したこともあり、翌年3月10日に欧州議会は「EC・日本間経済・貿易に関する決議」を行い、「日本・EC間の議会レベルでの協議の継続の重要性を強調し、したがって欧州議会及び日本国会議員団間の定期的接触の開始を提案する」ことを求めた。

具体的に議会間の「定期的接触」について言及するこの提案は、公賓として日本を訪問したロイ・ジェンキンスEC委員会委員長によって同年10月12日に保利茂衆議院議長に伝達された。これを受けて、日本国会と欧州議会の間でその進め方について協議が行われ、1978年7月に倉成正衆議院議員を団長とする衆参10名の議員団が訪欧し、同年10月には欧州議会から10名の議員が訪日して「日本・EC議員会議」が開催された。また、1978年7月には衆参両院議長の招請により欧州議会議長が訪日し、翌年7月には、直接選挙後初となる欧州議会の開会式に衆参両院議長が招待された(実際の出席は衆議院議長のみ)。

会議は欧州(ルクセンブルグ、ストラスブール又はブリュッセル)と日本(東京)で交互に開催され、2013年2月まで34回を数えている。会議の開催に際して、日本側は超党派の日本・EU友好議員連盟(会長:小坂憲次参議院議員)が、欧州議会側では欧州議会対日交流議員団(団長:ペトロ・イェジェック議員(チェコ))が重要な役割を果たしている。また、最近では会議それ自体とは別に準備会合も開催されており、国会と欧州議会の間で緊密な連携が図られている。

通商(貿易)問題が契機となってスタートしたとの見方ができる会議ではあるものの、会議においては当初から、日欧のそれぞれが直面している課題や日欧が共に対処していくべきグローバルな課題が広範に取り上げられている。最近の会議の枠組みは日欧のそれぞれの情勢と両者の関係について議論するセッションと、より広範なテーマを議論するセッションの二つのセッションから構成されることが多い。直近の第34回会議(日本開催)においては、第1セッションで「日本及びEUの政治情勢及び地域情勢」として、「日本の政治情勢」「欧州の政治情勢」が、第2セッションでは「共通の諸課題」として「包括的關係強化」「経済・財政・金融」「エネルギー安全保障」「社

会問題」がそれぞれ取り上げられている。また、訪日した欧州議会の代表団は宮城県を訪問し、被災地の復興状況の視察を行った。

昨年11月16日にブリスベンで行われた日EU首脳会談においては「2015年中に日EU経済連携協定(EPA)の大筋合意締結及び日EU戦略的パートナーシップ協定(SPA)の早期締結を目指し、共に努力する」ことが合意された。両者については第34回の会議で既に議論が行われているが、現在開催の準備を行っている第35回会議において更に踏み込んだ議論が行われることが考えられる。

日本・EU議員会議のような国会議員が出席して行われる「バイ」の国際会議は、政府間の交渉のように、必ずしも目に見える形でのアウトプットが期待されているものではない。国会も、欧州議会も直接的な外交交渉の権限を与えられている訳ではないが、例えばSPAやEPAのような最終的には国会や欧州議会の承認が必要になる案件について双方の議員の考え方が会議を通じて表明されることは、政府間の交渉では取り上げられないような別の視点からの議論を提起することを可能とし、政府間の交渉の深化という点からも重要性があるのではなかろうか。

また、日本とEUの間の交流・相互理解の基本にある人的交流という観点からみれば、日本国民を代表する衆参の国会議員とEU市民を代表する欧州議会の議員が一堂に会して様々な課題について忌憚のない議論を行うことは、人的交流の最たるものであり、そこに見落としてはならない会議の意義と重要性があることも併せて強調しておきたい。

※日本・EU議員会議を含む国会(参議院)が開催ないし公式派遣している最近の国際会議の情報については下記を参照願いたい。

http://www.sangiin.go.jp/japanese/kokusai_kankei/kaigi/kaigi.html#K09